

Gunma Flower Park⁺ リニューアルオープン!

群馬県 都市計画課(取材協力 群馬県 農政部 野菜花き課)

ぐんまフラワーパークは、県民に花と緑の憩いの場及び花と緑の学習の場を提供するとともに花き産業の発展と地域振興を目的に平成4年4月23日に開園しました。

一方、開園当初の入園者は年間約89万人でしたが、令和3年では約19万人まで落ち込んでいました。また、開園から30年が経過し、施設の老朽化が著しく進んでおり、さらに、県有施設として年間約1億7千万円の指定管理料を支出して運営されていました。

このような状況を踏まえ、令和3年3月に公表された「県有施設のあり方見直し最終報告」においては、今後のフラワーパークのあり方として、県有施設としての必要性や見直しの方向性が示されました。

この見直し方針に基づき、広く民間事業者から事業アイデアを収集するためサウンディング型市場調査が実施されました。同年10月にはその調査結果が取りまとめられ、事業の実現可能性等の検証が行われ、今後のフラワーパークの方向性について検討が進められてきました。

令和5年3月に策定されたリニューアル基本計画では、サウンディング型市場調査結果等を踏まえ、民間のアイデアを活用したリブランディングによる改修により、集客力と収益性を高め、独立採算による持続可能な施設運営を行うためのリニューアル基本方針等がまとめられました。

その後、基本設計および実施設計の受注業者が(株)パーク・コーポレーションに決まり、リニューアルのコンセプトおよび整備内容が決定され、令和5年から改修工事が開始されました。

さらに、令和6年3月に(株)パーク・コーポレーションを代表団体とするぐんまフラワーパークJVが施設の指定管理者として指定され、10月10日のリニューアルオープンに向けて準備が進められています。



Gunma Flower Park⁺ メインフラワーガーデン

■ コンセプトと3つの軸

リニューアルするフラワーパークのターゲットは県内の子連れの家族や花好きのカップル、夫婦などとされています。メインコンセプトは「Enjoy! 花とあそぶ」。子どもが楽しめるだけでなく、大人も一緒に楽しめる、そして大人が子どもを連れて行きたくなる。そんなパークを目指しているとのこと。

このコンセプトに加え、パークは「3つの軸」をもとに生まれ変わる計画とされています。

軸の1つ目は「Flowers & Greens」。花や緑に囲まれて豊かな時間を過ごすことに加え、花を摘む・香りを楽しむ・花で創る・花を味わうなど、五感で楽しむ多様なアクティビティを通じて、新しい「花と緑の楽しみ方」が提案されています。

2つ目は「@Gunma」。園内のさまざまな場所に、群馬県ならではの食材や地域文化、クラフト作品などを取り入れ、群馬の魅力を再発見・再発信していくことを目指されています。

3つ目は「Nature Positive」。ネイチャーポジティブとは、自然環境の損失を止め、回復させ、自然の豊かさを未来へと引き継いでいく考え方です。パーク内には、バイオネストやロスフラワーを活用したアクティビティ、虫のためのゾーンなど、自然との共生を感じられる仕掛けが随所に取り入れられています。



五感で感じる様々なアクティビティが楽しめます





■ 施設の概要

リニューアル後の園内は、「HANA(はな)」「MINAMO(みなも)」「TEIEN(ていえん)」など、テーマごとに分かれた5つのエリアで構成され、各エリアで個性ある体験が提供される予定です。「HANA」エリアは、メインフラワーガーデンでは、花壇に起伏を持たせることで、花に囲まれているような立体的な景観を楽しむようになっています。群馬ゆかりの花きであるバラ・アジサイ・クレマチスの3種のシグネチャーフラワーを中心に、季節によった変化も楽しむことができます。「MINAMOエリア」は、水辺に広がる花畑を眺めながら、デッキスペースで食事やお茶の時間をゆったり過ごすことができる空間です。群馬県産の食材を味わうことができるのはもちろんですが、高崎市の伝統工芸「竹皮編み」や古民家の廃材を活用した壁材など隠れた魅力も発見することができます。「TEIEN」エリアは、群馬の里山の暮らしを感じながら食事を楽しめる和風の飲食店が整備されているとのこと。この他のエリアでは、子どもが思い切り遊べる広場が用意されています。

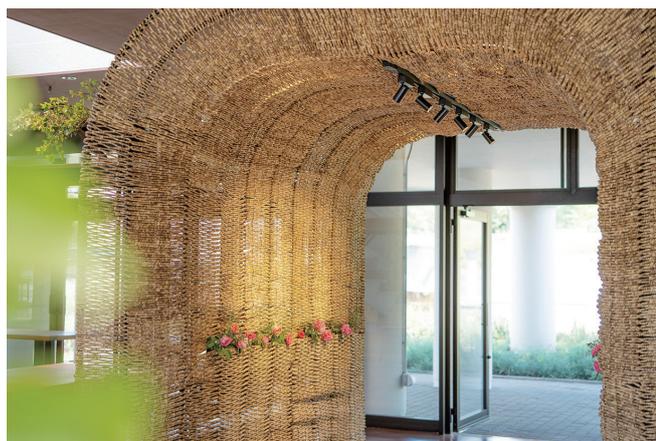


HANA メインフラワーガーデン



MINAMO ミナモエリア

園内のイメージ



高崎市の伝統工芸「竹皮編み」



「TEIEN」エリア

■ 取材内容

取材を通して感じたのは、同一の事業者が基本設計・実施設計から指定管理までを担っていることで、ハード面の整備から運営まで一貫した体制が整っており、どのエリアを見てもクオリティがしっかりと確保されているという点です。群馬ならではの要素や、ネイチャーポジティブの考え方に基づいて廃材などを活用した工夫が随所に見られ、ハイセンスな空間づくりに貢献しています。

今後も地域との連携も意識していく方針で、パーク内では県内自治体の特産の花にスポットを当てたマルシェの開催、パーク外ではワークショップの実施など、さまざまな企画が検討されているようです。

■ 結び

取材を通じて、ぐんまフラワーパークの新たな挑戦や、地域資源を活かした空間づくりを肌で感じる事ができました。花と緑を通じて、多様な世代に新たな価値を提供する場として生まれ変わろうとしている姿に、大きな期待を抱いています。リニューアルオープン後は、一日も早く現地を訪れ、その魅力をじっくり味わいたいと思います。

